

タブレット端末を用いて撮影した口腔内動画上での多職種による口腔環境評価の有用性

Usefulness of Oral Environment Assessment by Multiple Professionals on Intraoral Video Taken with a Tablet Device

○柳原有依子¹, 鈴木啓之¹, 古屋純一²⁻³, 中川量晴³, 中根綾子³, 瀬戸さやか⁴, 戸原 玄³, 水口俊介¹

○Yuiko Yanagihara¹, Hiroyuki Suzuki¹, Junichi Furuya²⁻³, Kazuharu Nakagawa³, Ayako Nakane³, Sayaka Seto⁴, Haruka Tohara³, Shunsuke Minakuchi¹

¹東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野

²昭和大学 歯学部 高齢者歯科学講座

³東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野

⁴東京医科歯科大学病院 看護部

¹Gerodontology and Oral Rehabilitation, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

²Geriatric Dentistry, Showa University School of Dentistry

³Dysphagia Rehabilitation, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

⁴Department of Nursing, Tokyo Medical and Dental University Hospital

タブレット端末により撮影した動画を用いて、適切な口腔環境評価を多職種が実施可能であれば、医療の効率化などの観点から有用であるが、その有用性に関する報告は少ない。そこで我々は、タブレット端末を用いて撮影した口腔内動画による、歯科医師および看護師の口腔環境評価の有用性を検討した。本研究は東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認を受けて行った (D2021-109)

研究対象者は、2022 年 1 月から 6 月までに、栄養管理目的で当院 Nutrition Support Team (NST)へ依頼となった入院患者 20 名 (平均年齢 71.1±10.9 歳)とした。ベッドサイドにて口腔環境評価、タブレット (iPad Pro, Apple 社, アメリカ)を使用した口腔内動画撮影を行うとともに、撮影動画上での口腔環境評価を行った。口腔環境評価は、Oral Health Assessment Tool (OHAT)を用いて行い、ベッドサイドでは歯科医師、動画上では歯科医師および看護師が行った。なお、口腔環境評価を行う歯科医師は、ベッドサイドと動画上で、それぞれ別の歯科医師とし、事前に十分なキャリブレーションを行った。ベッドサイドにて評価した OHAT (以下 OHAT-B) 合計点と動画上で歯科医師 (以下 OHAT-VD) および看護師 (以下 OHAT-VN) が評価した OHAT 合計点の級内相関係数を算出した。統計解析は SPSS Ver. 25 を用いた。

研究対象者における OHAT-B, OHAT-VD, OHAT-VN の合計点の平均値はそれぞれ 3.2±2.2, 3.6±2.2, 3.5±2.1 であり、OHAT-B 合計点と OHAT-VD および OHAT-VN 合計点の級内相関係数はそれぞれ 0.886, 0.746 であった。これより、タブレット端末を用いて撮影した口腔内動画による多職種での口腔環境評価の有用性が示唆され、遠隔診療の一助となる可能性が示された。